2024年８月１日　－　つくり・うたい・ひろめ・つなぎあう　－　第667号（1）

音楽運動

日本音楽協議会　〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町３丁目10-15 富士ビル505号室　発行人　松本敏之
TEL03-3221-1821　FAX 03-6369-3057　URL http://nichionkyou.org　Email nichion@yomogi.or.jp

音楽祭沖縄県実行委員会開催
高里鈴代さんが実行委員長に

７月16日、那覇市・那覇市職員労働組合書記局で、沖縄県内の音楽サークル・音楽家、平和団体・平和活動家、那覇市職労、日音協沖縄県支部あわせて９人と日音協松本会長が出席して、第55回はたらくものの音楽祭第１回沖縄県実行委員会が開催されました。

会議冒頭、日音協沖縄県支部の平良支部長が呼びかけ人としてあいさつ、また、日音協松本会長が日音協とはたらくものの音楽祭の説明も兼ねてあいさつしました。

オール沖縄共同代表の高里鈴代さん

参加者自己紹介の後、高里鈴代実行委員長、平良昌史事務局長を中心に第55回はたらくものの音楽祭沖縄県実行委員会を結成することが確認されました。

高里実行委員長は、「ただただ音楽が、歌が好きなだけでいいのかと思ったが、今日はいろんな方が集まって楽しくできるのではないかと感じた。協力しあって支えあって成功させたい」とあいさつしました。

平良事務局長が、音楽祭での沖縄県実行委員会企画、地元出演者、音楽祭でのスタッフ、全国交流会での対応、音楽祭への協賛お願い、県民・市民への参加働きかけについて提案。活発な討論で提案を補強しました。

平和な島を！

第55回はたらくものの音楽祭沖縄県実行委員会

実行委員長　高里鈴代（オール沖縄会議）
副実行委員長　下地史彦（沖教組島尻支部・語り継ぐ沖縄平和の会会長）
事務局長　平良昌史（日音協沖縄県支部長・那覇市職労委員長）
事務局次長　石川　勲（日音協沖縄事務局長）

実行委員は、各労組、平和団体、出演者から追加していく予定です。

- 実行委員会では「オープニング合唱」を予定しています。
- 地元からの出演者（スポットライト、出演エントリー、全国交流会での余興、など）を呼びかけています。
- 各労組などにスタッフの要請をしています。土日にそれぞれ（受付２名、舞台７名、照明１名、司会３名）

- 第２回実行委員会　８月１日（木）
- 第３回実行委員会　９月３日（火）

※沖縄音楽祭の成功に向け、皆さんのご協力を!!

全国交流会は県青年会館

■日　時　９月21日（土）19時～
■会　場　沖縄県青年会館
■会　費　4,000円
■内容は調整中
■泡盛など飲み物は十分だと思いますが、全国からの地酒（日本酒）など歓迎します。

事前に、那覇市職員労働組合（〒900-8585　沖縄県那覇市泉崎 1-1-1　地下１階 098-867-0230）平良昌史執行委員長宛てに送ってもらえれば嬉しいです。

ブービーバンド生誕200歳記念ライブ
「キックバックで」イッツ笑タイム

ブービーバンドは7月13日（土）に生誕200歳記念ライブを開催した。単独ライブは実に3年ぶり。3人の年齢を合わせると200歳という節目なのだが、3人の年齢は個人情報で伏せるとして置こう。ねっちゃんは自分が40歳で二人は80歳だと言ってるが、それはないだろう。さてライブ会場は「すすきの」奥にある韓国文化会館の地下のLoRe1スタジオ。飲食OK、騒いでもOK。壁のアチコチに「連帯を求めて孤立を恐れず」「反戦」「反基地」「反自民」「反天皇制」「反マイナンバー」などのビラを張って非合法な地下活動そのものの会場に仕上げた。参加者はFMカンパニー、行動する会、退職者会、組合の仲間、議員などで47人が結集。さながら討ち入りの数が揃った。

さて、17時から開演、オープニングは「人という字は」を手話を交えてうたい、続いてネッちゃんが銀のヘルメット（BBBの文字入り）をかぶり「共謀罪の歌」を歌う。『臨時ニュースです。BBBライブは組織犯罪グループの会合とみて、公安は会場を包囲しました』と参加者に警告して始まった。次に裏金問題の「キックバックブルース」、君が代と米国国歌を混ぜた「君が代改訂版」、続いて「天皇カルテットのダジャレソング」で笑いを誘い、さらに羽織姿に着替えたねっちゃんが「しりとり演歌」を熱唱、「マイナンバー恨み節」と続き、「ウクライナとガザに」を挟んで、元軍隊慰安婦だったおばあちゃんに捧げる「ハルモニへ」、そして前半最後の曲「サギ撲滅運動の歌」では『夢グループが提供する詐欺発見器です』『社長、安ーい』と笑いをとり締めくくった。

後半はフレディ・マーキュリーに扮した磯野が登場しての「ヘボミアン・ラプソディ」では『岸田政権退陣』とマイクスタンドを歌い・叫び、「決意」の北海道弁バージョン、反戦歌「どんどんどん」、天国の恩師に捧げる曲「Diar」をねっちゃんが涙を流しながらうたうとライブは佳境に入っていく。2000年に磯野邸の新築祝いで実際に起きた事件をもとにしたイエスタデイの替え歌で「家、建てたデイ」を歌うと会場は笑いに包まれ「宇宙人がやってきた」ではいま注目のパワハラ議員のコントで会場は一気に熱気に満ちてきた。いよいよデビュー曲の「線引きやっこ」を熱唱。そして「ガンバレ、ケッパレ高齢者」を歌ってラストの「北の友よ、南の友よ」でエンディングとなった。熱いアンコールに応えて「万歳三唱歌」を歌うと最後は「ブービー万歳！」でお開きとなった。今回はFMカンパニーの佐藤満さんのベースのお陰で音楽に厚みが加わり、宴会のような、政治集会のような、お笑い寄席のような雑多煮の2時間20曲のライブだったが、ブービーバンドの持ち味は十分に発揮できたようだ。さてライブの模様はDVDにするか、ユーチューブで流すか検討中。これが最後の「生前葬ライブ」だと思ってきた参加者もいたようだが、実は来年は結成40周年なのだ。四十にして惑わず、と言うが…さてどうしよう。

（桑野功）

大満足でした

写真右下に映り込んだ高沢さん

バッチリ、フライデーされた青森の高沢（たかさわ）です。ブービーの200歳ライブ、行ってきました〜。

始まりは私がチョイと遅れたけど、のっけからノリノリのステージ。会場は満席で熱気ムンムン。3人のハーモニーは耳に心地よく、ネッチャンとイソノさんの掛け合いは絶品！爆笑の連続。

反戦、反体制、年金生活者を励ます歌や反マイナカード、反天皇等などどれも聴きごたえがあり、さすがはブービー。

パワー炸裂、キレッキレのライブに大満足でした。

またの機会を楽しみにしてます。

音楽祭を継続していこう

全国代表者会議報告

日音協は7月27日～28日、東京都豊島区の雑司ヶ谷地域文化創造館で（ズームミーティングを併用）２０２４年度全国代表者会議を開催しました。

松本会長は冒頭、「第55回はたらくものの音楽祭に向け、沖縄県支部はじめ沖縄県実行委員会で準備が進められている、全国の仲間たちの協力で成功に向けて取り組みたい。また、来年の音楽祭にむけた準備についても提案するので、議論をお願いしたい」とあいさつしました。

集合写真（他に、北海道、新潟、茨城の参加あり）

経過報告に続いて各支部の活動も報告し合いました。

議事では、まず第55回はたらくものの音楽祭について、「諸事情により連合沖縄を中心とする沖縄県実行委員会の結成が困難な中、関係団体の協力を得て県実行委員会が結成され準備が進められている。」「エントリーの締め切りは8月1日だが、現時点で10団体から申し込みがあった。引き続き全国の仲間の参加をお願いしたい。」また、連合沖縄の後援がいただけないことから、沖縄県内の労働組合などからの支援・協賛が縮小することが考えられること、舞台準備関係などの経費が掛かり、支出増が予想されることなどから。音楽祭特別会計予算を見直し、一般会計の予備費から繰り入れることが提案されるとともに、沖縄県支部の平良支部長から、第1回県実行委員会の報告と準備状況が報告されました。

対面での会議に参加の皆さん（写真：森さん）

出席者からは、「協賛金が減るのであれば、全国各支部へ広告費の協力依頼をしても良いのでは」「ギターなどの楽器を飛行機で持ち歩くのは大変なことから、レンタルなどで備え付けることはできないか」「会場での物資販売は可能なのか」「大交流会の内容も検討すべき」「スポットライトの推薦と選考についてどのような方向で対応するのか」など意見が出され、「物販については、会場で行うとなれば施設費が割増しとなることから、全国交流会の会場で行う方向で検討したい」「スポットライトの出演団体は支部の推せんを尊重する」また、広告費の全国への依頼と楽器のレンタルについては、「早急に幹事会で議論し、可否を含めどのような対応ができるのか示したい」と回答がありました。

また、沖縄県支部より、「より多くの労組の協力や支援を得るために、全国から沖縄県内のそれぞれの組織に声掛けをしてほしい」との要請があり、全体で協力していくことを確認しました。

次に、第56回はたらくものの音楽祭を２０２５年に長野県で開催すること、時期は8月か10月中旬以降を第一候補として準備することが提案されました。また、音楽祭特別会計の繰越額が大きく縮小する見込みであることなどから、音楽祭の規模の縮小が避けられないことから、音楽祭のコンパクト化または、費用の縮小を図ることとして、第56回音楽祭をそのスタートに位置づけ、12月の第61回定期総会に向けて各支部の意見を伺いつつ具体化していくことを確認しました。

当面の取り組みについては、①各ブロック合宿の取り組みの強化。②日音協ソング２０２４への取り組み。③9月16日に東京都渋谷区で開催される「さようなら原発全国集会」に参加することなどを確認しました。また、昨年の総会以降3名の新規入会と1名の退会が報告され、引き続き新規会員の拡大を図っていくことを確認しました。

日音協第61回定期総会は、12月7日（土）13時から東京都内（ハイブリッド方式）で開催予定です。

「南風(ふぇーぬかじ)」⑨

音楽は世界を変える
沖縄のチムグクルをあなたへ

沖縄県支部長　平良昌史

標題は、今回の沖縄音楽祭のテーマです。第１回はたらくものの音楽祭は、１９６７年東京で開催され、そのときのテーマは「ベトナムにとどく歌を！沖縄の祖国復帰を歌おう！」でした。当時は、米軍支配の沖縄を出撃基地としてアメリカがベトナム戦争を行ない、戦争継続のため銃剣とブルドーザーと言われる新たな土地の強制接収が行われていました。

昆布闘争で 1967 年に作られた『一坪たりとも渡すまい』の歌詞のなかで「ベトナムの友を撃ちにゆく 世界を結ぶこの空を 再び戦で汚すまい」と歌われ、米軍が強制接収を断念する原動力となりました。

現在でも国土面積の約 0.6%の沖縄に米軍基地の７０%が集中し、辺野古新基地建設が強行され、さらに、南西諸島での自衛隊ミサイル基地が強行配備されています。ロシアのウクライナ侵略、イスラエルのパレスチナ人虐殺と、平和のために人が殺され続けています。昔も今も私たちが目指すのは、反戦平和です。

沖縄は大国に翻弄されながらも、独自の歴史や文化によって培われた寛容の心と万国津(しん)梁(りょう)の精神で多くの国々と交流し、平和を維持してきた歴史があります。それを表した沖縄の島言葉（ウチナーグチ）に「チムグクル」という言葉があります。

「肝心 チムグクル」とは、「相手を心から思いやること」を意味し、沖縄の人々（ウチナーンチュ）が悲惨な沖縄戦を体験し、その実相や教訓を次の世代に正しく伝えて、二度と同じ過ちを繰り返さない、平和と命の尊さを大切にするのが「沖縄のこころ・チムグクル」です。

戦争に勝者はいない、お互いを本当に思いやる関係を望むならば、痛んだ心や悲しむ心を深く慮る「チムグクル」をあらためて心に刻み、その痛みを分け合い、ゆるし合うことが、全ての人々に求められます。今回のテーマに、反戦平和の願いを強く優しく込めています。

はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話し　第11弾

坂口美日

■そろそろ舞台配置図記入の時期になってきました。記入に際しての不明点がありましたら、どんなことでも結構ですので、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先　０９０-７９４５-６４００
p.mikann@nifty.com　（坂口）

■ステージで、DI、エフェクター、アンプなどに楽器を接続する予定の方におねがいです。第 55 回音楽祭では、シールドケーブルは主催側で用意することにしましたが、自分のシールドケーブルを使いたい方は、舞台配置図の持ち込み機材欄にご記入ください。記入忘れ、またはその後に変更になった場合は事前におしらせください。

■ギターを持って航空機に搭乗することに難儀を感じている方に耳寄り情報です。沖縄県支部長で沖縄県実行委員会事務局長の平良昌史さんのお知り合いのライブハウス、または沖縄行動でいつもお世話になっている宮城スタジオオーナーの宮城康一さんからレンタルいただけることになりました。主に、アコースティックギターですが、エレキやベースも要相談とのこと。レンタルを希望される方は、レンタル先を平良さんが紹介してくださるとのことです。ただし、実際の契約は個人で進めてください。楽器の受け渡し、返却、その他トラブルには、日音協は関与しません。

平良昌史さんの連絡先　090-1942-9690

平和の火（平和祈念公園）

千羽鶴（ひめゆり平和祈念資料館）

＜金口木舌＞昆布闘争から半世紀

2016 年 12 月 02 日　琉球新報より

辺野古や高江の座り込み現場に響く歌がある。反戦歌の「一坪たりとも渡すまい」だ。具志川村（現うるま市）昆布の土地闘争の中で１９６７年に生まれた。〈東支那海前に見て／わしらが生きた土地がある／この土地こそはわしらが命／祖先ゆずりの宝物〉

▼昆布集落は太平洋に面しているのに、なぜ東シナ海か。歌詞を作ったのは、昆布土地を守る会会長・佐久川長正さんの四女・佐々木末子さん。当時高校生だった▼伊江島を訪ねて阿波根昌鴻さんらから土地闘争を学んだことが忘れられず、詞を書いた。１番は島ぐるみ闘争の原点である伊江島で見た東シナ海を描き、２番で昆布の土地を渡すまいとの固い決意を示した▼今年は昆布闘争から５０年。６６年１月、米軍が２万１千坪の農地を接収すると通告し、１０月から座り込みが始まった。闘争小屋が米兵の襲撃や放火に遭いながらも、県内外からの支援を受けて５年以上も抵抗を続けた。７１年夏、ついに米軍は接収を断念する▼民衆の力で土地を守り抜いた昆布の闘いを振り返る企画展が那覇市の不屈館で開かれている。生々しい文面の闘争日誌や写真が目を引く▼記念講演で佐々木さんは「農民の粘り強さに米軍は負けた。何の力もないけれど県民の団結があった」と強調した。国や警察権力の露骨な弾圧が強まる今だからこそ、勝利の歴史から学ぶものは多い。

沖縄慰霊の日(6/23)2024平和の詩

これから

宮古高校3年　仲間友佑（18）

短い命を知ってか知らずか
蝉（せみ）が懸命に鳴いている
冬を知らない叫びの中で
僕はまた天を仰いだ

あの日から七十九年の月日が
流れたという
今年十八になった僕の
祖父母も戦後生まれだ
それだけの時が
流れたというのに

あの日
短い命を知るはずもなく
少年少女たちは
誰かが始めた争いで
大きな未来とともに散って逝った

大切な人は突然
誰かが始めた争いで
夏の初めにいなくなった
泣く我が子を殺すしかなかった
一家で死ぬしかなかった
誰かが始めた争いで
常緑の島は色を失（な）くした
誰のための誰の戦争なのだろう
会いたい、帰りたい
話したい、笑いたい
そういくら繰り返そうと
誰かが始めた争いが
そのすべてを奪い去る

心に落ちた
暗い暗い闇はあの戦争の副作用だ
微（かす）かな光さえも届かぬような
絶望すらもないような
怒りも嘆きも失くしてしまいそうな
深い深い奥底で
懸命に生きてくれた人々が
今日を創った
今日を繋（つな）ぎ留めた
両親の命も
僕の命も
友の命も
大切な君の命も
すべて

心に落ちた
あの戦争の副作用は
人々の口を固く閉ざした
まるで
戦争が悪いことだと
言ってはいけないのだと
口止めするように
思い出したくもないほどの
あの惨劇がそうさせた

僕は再び天を仰いだ
抜けるような青空を
飛行機が横切る
僕にとってあれは
恐れおののくものではない
僕らは雨のように打ちつける
爆弾の怖さも
戦争の「せ」の字も知らない
けれど、常緑の平和を知っている
あの日も
海は青く
同じように太陽が照りつけていた
そういう普遍の中にただ
平和が欠けることの怖さを
僕たちは知っている

人は過ちを繰り返すから
時は無情にも流れていくから
今日まで人々は
恒久の平和を祈り続けた
小さな島で起きた
あまりに大きすぎる悲しみを
手を繋ぐように
受け継いできた

それでも世界はまだ繰り返してる
七十九年の祈りでさえも
まだ足りないというのなら
それでも変わらないというのなら
もっともっとこれからも
僕らが祈りを繋ぎ続けよう
限りない平和のために
僕ら自身のために
紡ぐ平和が
いつか世界のためになる
そう信じて

今年もこの六月二十三日を
平和のために生きている
その素晴らしさを噛みしめながら

日米で20万人余が犠牲になった沖縄戦の犠牲者らを悼む「慰霊の日」。23日の沖縄には梅雨明けの青空が広がっていた。糸満市摩文仁では沖縄全戦没者追悼式があり、宮古高校3年の仲間友佑さん（18）が「これから」と題した平和の詩を朗読した。（2024年6月24日　朝日新聞）

2024東北北ブロック合宿へのお誘い

■ 日　時　2024年8月31日（土）13時～9月1日（日）12時
■ 会　場　青森県八戸市　みちの駅なんごう（JAZZの館）
■ 参加費　13,000円（1泊2食、交流会費、運営費）
■ 内　容　班活動と合宿コンサート
① 沖縄音楽祭の東北北合同発表曲を練習する班活動
② 準備したメロディーに、作詞して、仕上げる班活動
※ 全国からの問合せは、佐藤（090-9037-5195）まで。
電話なり、ショートメールでお願いします。

歌の力が物語るもの132

茱萸坂うた行動 7／12（515回）報告　Rico

【参加者】鈴木さん、長島さん、達哉、森　計4名

朝から雨。夕方弱まってきたものの、千代田区はまだしばらく降り続く予報が出ていた。とりあえずアコのケースにビニールをかけて出かけた。地下鉄の先の天気に期待。しかし国会議事堂前は降っていた。茱萸坂には鈴木さんと長島さんが傘をさして立っていた。達哉がギターを取り出し、そのなんちゃって伴奏で『たなばた』を歌った。季節のうたはこの時期しか歌えないからね、と、坂口作、加本作のふたつの『たなばた』を歌う。あの日の事故を忘れない、その後も繰り返される愚行への怒りと悔しさを忘れない…と歌う。

鈴木さんが笠木さん作の『ぼくたちは手をつなぐ』の楽譜を持ってきて教えてくれた。千葉での行動で歌ったそうだ。かろやかな曲で、政治や反原発や平和などで広く連帯を呼びかけている。いろんな行動でも歌いたい。

黒雲が切れてきたので、アコも取り出した。楽器が入ると声も伸びる。『あなたに届けと』『明日がない』などに続けて、上野さんの新作『民衆の歌』の替え歌に取り組んだ。「美しい砦奪われるな」と歌う、これはきっと憲法を指している。歌詞付けが難しいところがあって何度か繰り返す。歌っていたら警察官が寄ってきた。（久しぶり！）「何をしているのですか？」という問いかけに、『民衆の歌』で勢いがついていた鈴木さんがたたみかけるように「平和の歌を歌っているんです。いま、こんなに危ない世の中になって、戦争とか起こったら困るじゃないですか。お巡りさんたちも困るでしょう？」と。警察官も思わず「そうですね」と相槌をうつ。（鈴木さん、カッコいい！）

平和や反原発・反基地を歌っていること、時間は7時半までの1時間であること、いつもの質問にいつもの答え。

再び歌う。今度は沖縄の歌を。『月桃』『ジュゴンがすむ海』『座り込めここへ』。

安和の事故（6月28日、名護市の安和桟橋で、辺野古埋め立てのための土砂を運ぶトラックが抗議中の女性と警備員を轢いた。警備員は亡くなり、女性は重傷を負った。トラック出口を牛歩で横断する抗議行動していたところ、いったん停車していたトラックが再発進し、左折で巻き込まれたという。）で警備員が亡くなったことに対し抗議行動が責められている。先日の防衛省前行動でも、正門対岸の右翼団体が「おまえらが殺したんだ！」と暴言をくり返していた。人がいるのにトラックを発進させた警備体制の不備ではないか。安全軽視で工事を急がせている事が問題ではないか。米兵の事件も繰り返され、隠蔽され、市民の日常の安全も軽視されているのだ。今夜、外務省前で学生たちが中心になって、米兵犯罪に抗議する行動が行われている。守屋さんたちもそちらに参加したようだ。

「大衆はすぐに忘れる」なんて言われたくない。近頃とみに忘れっぽくなっている私だけれど、忘れてはいけない事々を、歌いながら反芻しよう。茱萸坂で共有し確かめあって、心に刻んでいこう。

水道橋だより

▼2024 全国代表者会議。沖縄音楽祭の取り組み状況について。東京都支部は、20 名が参加予定とのこと。北海道は 10 名が参加するとのこと（北海道は沖縄を最後に参加しないというあらぬ流言が流れているようだが、来年に向けて準備している）。全国からもさまざまな報告がなされた。▼参加したいのだが、行くとすれば夫婦で行きたいので、経済的に厳しい。退職して時間はあるが、金がない。といった声も聞こえる。（佐藤）▼2024 日音協ソングの募集も始まっています。「自分で曲を創れるようになった。でも、ああだこうだと批評されたくないので、応募はしないよ！」という声も聞く。Gさんは「そうかなぁ、俺なんかいろいろ言われたほうが励みになるけどなぁ」とのこと。「俺は打たれ強いから」「確かにあなたは叩きがいがある」と笑い合った。▼一律な対応はできないけど、『やさしさを持った批評・感想』のやりとりにしてほしい。（佐藤）

どん行

（181）

飯島貞親

▼パリ五輪のマスコミ報道にうんざりさせられている。薬物使用がはびこるメダル第一主義や知識の薄い芸能人が集まって馬鹿騒ぎする特集番組は、暑苦しさが増すばかりだ▼五輪の歴史を振り返ると「平和の祭典」どころか、痛ましいテロ事件を思い出す。ミュンヘンで開催された時は、パレスチナ武装組織がイスラエルのアスリートを11人も殺した。フランスでは経済低迷の要因は移民の受け入れだとする考えが増え、「移民排斥」を掲げる右翼政党が躍進しており、移民の中にはパレスチナ難民も少なくなく不安はつきない▼また、経済効果という大義がまかり通る一方、五輪・パラリンピックをめぐる汚職は後を絶たない。五輪と言えば今や完全な商業主義的色彩が濃厚で、アメリカのスポーツ観戦事情に合わせた開催時期となっている。それも北半球（東京、パリ）なら猛暑時期と重ねて・・・▼開催地決定の問題も大きい。開催が決まれば税金が投入されるが、どう使われたのかは明示されない。オリンピックを運営する組織と、関連企業と政治―この関係性だけで開催地が決められていく▼一握りの勝者と大多数の敗者を生み出す競争に支配された五輪は、即刻ゴリンジュウにして欲しいものだ。